

サポートセンター通信

NO.33

発行元：松本市市民活動サポートセンター
〒390-0874 松本市大手3-8-13
松本市役所大手事務所2階
TEL/FAX：0263-88-2988
E-mail：support-center@support-center.jp
URL：http://www.support-center.jp

新年度を新しい気持ちで！



市民活動サポートセンター 登録団体活動紹介冊子、作ります！

市民活動サポートセンターが開設されてから5年あまりが過ぎました。おかげ様で、240を超える団体さんに、市民活動サポートセンターの利用登録をしていただきました！

例年、登録団体の皆さまには、年度のはじめに登録情報の変更の照会させていただいていますが、今年は、情報の確認とともに、希望する団体の登録情報をまとめた冊子を作成したいと考えています！

そこで・・・登録情報で変更のあった情報や、冊子の作成にあたり、登録申請書に書く欄のなかった団体のPR(ウリ)・団体が欲しい人材の募集情報・写真などなど冊子に追加して掲載する情報をセンターへお寄せください！

今回、登録団体の皆さまへ、この通信と一緒に現在の登録情報を記載した「登録情報確認書」をお送りしています。活動を続けていく中で、団体事務所や担当者、活動内容など変わってきた部分があるかと思えます。確認書を参考に、ぜひ最新の情報への更新をお願いいたします！

サポートセンター23年度事業計画！

時期・内容は変更の可能性があります。

NPO広報術講座【11月】

“お金をかけない”チラシの作り方、簡単なホームページの作成方法などを学びます。

助成金獲得講座【1月】

元気づくり支援金など、助成金の要綱解説、申請書の書き方など助成金獲得の実践力を学びます。

プラチナ世代支援セミナー【5月、9月、10月】

“プラチナ世代”を対象に、これからの生き方探しや生きがい探しを応援するセミナーです。

プラチナサロン【不定期】

“プラチナ世代”の方々が集まり、市民活動、ボランティアなどについてフリートーク！

市民活動フォーラム【未定】

“市民協働”をテーマに毎年開催している市民活動フォーラム。今年も開催いたします！

市民活動お見合いひろば【3月】

市民活動をしたい市民の方々と、活動に関わる人を増やしたい市民活動団体の“お見合い(マッチング)”のための企画。

プラチナ世代支援セミナー 第1弾 「生き方の転換」-東日本大震災の現場から-開催！

開催日 平成23年5月19日(木)
会場 市民活動サポートセンター
講師 神宮寺住職/ライフデザイナー/理事 高橋卓志氏
参加費 500円
定員 60名(定員になり次第締切)
主催 市民活動サポートセンター
NPO法人ライフデザインセンター
申込先 市民活動サポートセンターまで



予告

市民活動フェスタ2011in松本
「ぼくらの学校」

10月1日(土)・2日(日)に開催する市民活動フェスタ2011in松本「ぼくらの学校」。

今年のテーマは、“「わ」をつなげよう”に決定！
参加団体の募集は、6月中旬から始まります！

6月中旬に、サポートセンターから「ぼくらの学校募集概要在中」と書かれた封筒を登録団体の皆さまへお送りします！ 乞うご期待！



3月11日の大震災から2ヶ月が経とうとしていますが、被災地では仮設住宅の建設が難航し、依然としてたくさんの方が避難所で生活しています。震災発生直後は、ボランティアが入っていくことが難しいといわれていましたが、道路の整備なども進み、避難所では徐々にボランティアによる支援が始まっています。今回は、岩手県陸前高田市で炊き出しを行っている松本市の炊き出し機動部隊「みらい」の代表、浅田修吉さんにお話を伺いました。

*はじめに、みらいを結成した経緯を教えてください。

16年前の阪神淡路大震災のときに、松本市から炊き出し部隊をつくるのに声がかかって、被災地に行ったのがきっかけです。そのあとに松本市内の飲食店に勤める仲間と、みらいを結成しました。

*どんなスケジュールで行くのですか？

土日はそれぞれ自分の店の営業があるので、月曜に用意して火曜に出発、金曜に帰ってくるという感じです。3月29日～が1回目で、それから毎週行っています。みらいのメンバーは20人いますが、各回行くのはその中で私を含めて4～5人です。お寺に泊まっているため、あまり多くても負担をかけてしまいますから。

*どんな準備をしていくのですか？

1日で1000～1300食作るので、その分の食材と水を1トン用意していきます。行く前に、小学校にいる被災者以外にも、まわりに規模の小さな避難所がたくさんあるということを聞いて、小分けにして配ることのできる体制にしたいと思いました。そこで『てくてく』に移動販売車を貸してほしい、とお願いして貸してもらっています。また、小分けにするための保温性のある食缶を集めていて、給食センターに声をかけているところです。

*具体的にはどんなメニューを作っているのですか？

基本の材料は豚汁で使う材料で、それを色々アレンジして、親子丼、クリームシチュー、ピラフなどを提供しました。明日(4月19日)からの炊き出しのメニューはハンバーグ、から揚げ、中華丼なども予定しています。



みらいのメンバーと(左から二番目が浅田さん)

*とてもバラエティー豊かですね。

豚汁やおにぎりといった「被災地のご飯」ではなくて、だんだんと普通の食事を提供する段階に入っているのだと思います。食事だけでなく、コーヒーとケーキのコーナーもつくりました。ただ、被災された方の中には「もっと辛い思いをしている人がいるのに、私だけこんなにいいものを食べられない」とおっしゃる方もいらして。そこは特に被害の大きかったところで、肉親をなくされた方も多かったです。そういった意味で、ボランティアの疎外感のようなものを感じることもありました。

*被災地での炊き出しは、どんな工夫がいろいろあるのですか？

最も気を使うことは、洗う場所や水が限られているので、鍋を焦がさないことです。焼きソバも普段は油を引いて肉を炒めるところを、炊き出しではキャベツの水分で蒸すように作って油は最後です。それに、一食分焦がしちゃいました～なんて許されないので、人の命がかかっているから失敗できない、という思いです。



炊き出しに並ぶ子どもたち

*今後の活動についてはどう考えていますか？

1回の炊き出しで20万円くらいかかるので、資金的に考えるとあと5～6回いけるかどうか、というところです。我々がもっていった調理用具を他の人にも使ってもらえるようにして、支援が長期的なものになるようにしていく必要があると思います。ボランティアとして行くからには、被災地見学のような感覚で行くのではなくて、被災された方に信頼されるようなボランティアでなくてはならないと思いますね。

(すみたに)

問合せ：090-7816-9095 (浅田さん)

ひろがる

支援の輪



フリマネット信州

東日本大震災被災地支援活動

連絡先 フリマネット信州 (代表 立石 恵子)
TEL : 090-9664-5510 URL : <http://furimagnet.com/>

大震災が東日本を襲ったとき、松本で活動していた立石さん。テレビで津波が町を襲う衝撃的な映像を見て、いてもたってもいられなくなったという。「何かしなければ」という強い思いに駆られ、すぐさま行動に移されたフリマネット信州の立石さんにお話を伺った。

立石さんは、「一人ひとりがまずは、普段の日常生活を送ってほしい。そのうえで、小さなことでも自分に出来ることから少しずつ取り組んでほしい」と強く語る。その思いで、フリマネット信州では、震災が起きてからこれまでに、募金活動・ラジオや毛布等物資の募集活動・災害支援のための講座の開催、また、フリーマーケットを通しての資金調達など、様々な面で自分たちに出来ることから活動してきた。集まったラジオは、未だ電気が復旧していない被災地のもとへ、現地に赴くボランティア活動グループに託し、届けたという。その中で、中規模の避難所は、大規模あるいは小規模の避難所に比べ、あまり目が向けられていないことに直面した。岩手県山田町の大澤小学校を訪れた時、教師達が、被災者の一人であるにもかかわらず、子ども達の食事だけでなく、被災された方々の食事も作っていたのだ。

人手不足の為に休む暇もなく働き、肉体的・精神的にも負担が掛かっている姿を目の当たりにして、今後とも、主に中規模の避難所に重点を置いて支援していく予定である。さらに、「今被災地は何を求めているのか」というニーズの調査、ニーズを把握したうえで、実際に現地に出向く人材の募集及び派遣等の支援活動にも取り組んでいくことにしている。

フリマネット信州は、他のボランティア活動とも連携して支援活動を行っている。

あらゆるボランティア団体が手を取り合い、市民のネットワークを作って、長期にわたって様々な支援活動に力を注いでいきたいと語る。(ごみょう)



アースディまつもとのようす



震災復興支援フリマもやります!
他にも、音楽ステージ・ワークショップ等



地球の日アースディまつもと2011

～愛と平和と、支え合うメッセージをここから地球に発信しよう～

日時：5月21日(土) 午前10時～午後3時

場所：サッカースタジアム アルウィン

入場無料

松本市社会福祉協議会 災害ボランティア募集

甚大な傷跡を残した大地震から2カ月が過ぎ、今、日本中が力を合わせて復興に向けて動いています。東日本大震災で被災された方々を支援したい、復興のために何かをしたい、という市民の皆さんの温かい思いを届けるために、松本市社会福祉協議会ボランティアセンターでは、ボランティアバスを運行します。被災地でのボランティア活動の実施にあたり、希望される方を募集します。

- ★日程 平成23年5月29日(日)～6月1日(水)
- ★活動場所 岩手県山田町
- ★活動内容 被災家屋の土砂のかき出し、清掃、がれきの撤去 等
- ★募集人数 20名 重労働になるため、健康で体力に自信のある方
- ★経費負担 自己負担あり 宿泊代(@7,800×3泊)、昼食代、保険料 等
- ★交通手段 (有)てまりバス



申し込み、問い合わせは 松本市社会福祉協議会ボランティアセンター 25-7311まで
なお、定員となり次第、募集締切りとなりますので、ご了承下さい。

イベント情報をお寄せください

センター通信やホームページで、皆さんのイベント情報や募集情報などをご紹介します。

はぐまつ会員募集！

はぐまつは、この3月にオープンした松本市公式子育てポータルサイト。地域の子育て情報の拠点です。また、インターネット上だけでなく、リアルなコミュニケーションがとれるよう、座談会やイベントを開催しています。さまざまな現場の新鮮な情報をお寄せいただく“はぐまつ会員”を募集します！

子育て中、または子育て経験豊富な方、子育てに関心のある方ならどなたでも、中学生から年齢を問わず（中学生は保護者の許可要）参加することができます。

お気軽にご参加ください！

詳しくは <http://www.hug-matsu.jp/>へ

“工芸の五月”を楽しもう！

松本の5月は、工芸一色！多彩な工芸イベントがここかしこで開催されています！

企画

工芸をめぐるふたつの町の国際交流展

ほろ酔い工芸展

みずみずしい日常

テーブルと椅子の回廊

イベント

フォーラム「街を楽しむ 日常を楽しむ」

講演会「心の用」の復活 革新する工芸

スツールづくり などなど・・・

各企画・イベントで開催日時・会場が異なります。

企画内容・イベントの詳細は「工芸の五月」ホームページ <http://matsumoto-crafts-month.com/>で！

サポートセンター新任職員紹介

4月からお世話になっています。新年度から専任スタッフが減員となってしまいましたが、ご要望を伺いながらより良い形で皆様の「市民活動」をサポートできたらと考えています。ご意見を気軽にお知らせください。よろしくお願いいたします。
(協働推進担当係長 松田佳子)

4月からお世話になります。斎田と申します。まだ至らない点があるかと思いますが、頑張りますのでよろしくお願いいたします。(斎田英子)

今年度から、スタッフとしてお世話になっております。まだまだ至らない点が多々ありますが、ひとつひとつ勉強しながら頑張りますのでどうぞよろしくお願いいたします。(今福ゆかり)

5月からお世話になります。前田と申します。普段は大学生をしています。市民の皆様にとって居心地の良い場をご提供できるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。(前田理子)

全国城下町シンポジウム松本大会

～地域と時代を牽引する城下町 今変革の第一歩～

日時：6月11日 13:30～

記念講演会

「城下町は輝けるか ～これからのまちづくりと復興へのメッセージ～」

講師：建築家 安藤忠雄氏

分科会

第1分科会 「地方都市の国際化」

講師：金 美齢氏

第2分科会「ふるさとの森づくりは城下町を変えられるか」

講師：宮脇 昭氏

第3分科会「輝き、生きる城下町！」

講師：白戸 洋氏

第4分科会「ニューツーリズムとは」

講師：佐藤 博康氏

パネリスト：清水 宏一氏 肥塚 由紀子氏

分科会の詳細は <http://matsumoto-jc.jp.30shiro/>へ

記念講演会及び第1分科会については申し込みが必要です。往復はがきに 住所 氏名 年齢 職業 連絡可能な電話番号を明記し、下記の宛先までお申込下さい。

〒390-0811 松本市中央1-23-1

(社)松本青年会議所内「安藤忠雄記念聴講会」係

又は「第1分科会・金美齢」係 へ

～いのちの輝きに寄り添って～

ライフデザインセンター10周年記念企画

各分野の専門家が集まってネットワークを作り、一人ひとりの『命』に寄り添いながら、その人らしい生き方への支援のネクストステージへ！

第1部 対談 鎌田 實氏VS高橋 卓志氏

ミニコンサート 11弦ギター奏者 辻 幹夫氏

第2部 トークセッション

日時 6月15日(水) 13:00～

会場 松本市民芸術館・小ホール

参加費 無料

申込み NPO法人 ライフデザインセンター

松本事務所 TEL・FAX 0263-46-2020

編集後記

未だに震災の爪痕が残る東北をテレビで見ると自然の恐ろしさや家族の絆を感じます。いつもはあまり気にしていなかった母の日ですが、今年はいつも言えない「ありがとう」の言葉を贈りました。ありふれた毎日に感謝しながら、少しずつ復興してきた東北や日本経済に微力でも協力できたらと思います。

(とざわ)